

| | | | |
|-----|-----------|----|-----|
| 科目名 | 病態分子生理学特論 | 選択 | 1単位 |
|-----|-----------|----|-----|

◎責任教員

| | | | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|--|--|
| 担当教員 | ◎教授 厚味 徹一 准教授 大藏 直樹、講師 道志 勝、講師 富岡 直子、助教 石橋 賢一 | | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | | |
|------|--------|------|------|------|----|------|----|
| 開講年度 | 2020年度 | 配当年次 | 1～4年 | 配当学期 | 後期 | 授業方法 | 講義 |
|------|--------|------|------|------|----|------|----|

| | |
|-------|--|
| 授業の概要 | <p>疾患は、単一ではなく複合的な要因によって引き起こされるものも多く、生活習慣病やがんなどはその代表である。これら複合的な要因に関しては分子に基づいた視点での解析が行われており、さらに解析結果は診断や治療に応用されている。</p> <p>本講義は2日間の集中講義形式で行う。各日1つの疾患を取り上げ、分子的な視点で病態をとらえることを、グループワークでディスカッションを交えて目指す。具体的には、様々な面から疾患についてまずは各自まとめ、次にまとめたことについて教員などと意見交換などを行った後に、グループとしての意見をまとめて発表する。</p> |
|-------|--|

| | |
|---------|---|
| 授業の到達目標 | <p>① 薬物治療や病態把握への応用を目指し、統合的かつ分子的な視点から疾患をまとめ、説明できる。</p> <p>② 分子生理学的な理解に基づいて、疾患に関することを薬物治療を主導する立場として伝えることができる。</p> |
|---------|---|

| 授業計画 | 回数 | 担当者 | 行動目標 |
|------|----|-----------------------------------|--|
| | 1 | 厚味 徹一 教授 大藏 直樹 准教授 石橋 賢一 助教 | 1つ目の疾患として取り上げる疾患を事前に調べてきた内容の発表から議論して決める。 疾患1の病態を分子的な視点でまとめる。 |
| | 2 | 厚味 徹一 教授 大藏 直樹 准教授 石橋 賢一 助教 | 疾患1を分子病態生理学的な観点から説明できる。 疑問点や問題点を抽出し、解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けた方向性を示すことができる。 |
| | 3 | 厚味 徹一 教授 大藏 直樹 准教授 石橋 賢一 助教 | 疾患1の病態を薬物治療を中心とした治療に基づいた視点からとらえることができる。 |
| | 4 | 厚味 徹一 教授 大藏 直樹 准教授 石橋 賢一 助教 | 疾患1の病態や薬物治療を分子的な視点で捉え、根拠に基づいてわかりやすく説明できる。 議論を通して、他人の意見を参考にして、自分の考え方や意見をまとめることができる。 疾患1について、薬物治療を主導する立場として、他の人に伝えることができる。 |
| | 5 | 厚味 徹一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 | 2つ目の疾患として取り上げる疾患を事前に調べてきた内容の発表から議論して決める。 疾患2の病態を分子的な視点でまとめる。 |
| | 6 | 厚味 徹一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 | 疾患2を分子病態生理学的な観点から説明できる。 疑問点や問題点を抽出し、解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けた方向性を示すことができる。 |
| | 7 | 厚味 徹一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 | 疾患2の病態を薬物治療を中心とした治療に基づいた視点からとらえることができる。 |
| | 8 | 厚味 徹一 教授 道志 勝 講師 富岡 直子 講師 | 疾患2の病態や薬物治療を分子的な視点で捉え、根拠に基づいてわかりやすく説明できる。 議論を通して、他人の意見を参考にして、自分の考え方や意見をまとめることができる。 疾患2について、薬物治療を主導する立場として、他の人に伝えることができる。 |

| | |
|----------------------|--|
| 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間 | <p>講義で取り上げるべき候補となるいくつかの疾患を様々な資料を参考にして選び出し、ガイドラインを参考にしてまとめる。(事前16時間)</p> <p>各自が候補とした疾患の概要を発表できるように資料を作成する。(事前12時間)</p> <p>講義で取り上げた疾患に関して、今後の展開について調べ、まとめる。(事後4時間)</p> |
|----------------------|--|

| | |
|-----|----|
| 教科書 | なし |
|-----|----|

| | |
|-----|----|
| 参考書 | なし |
|-----|----|

| | |
|--------------|---|
| 成績評価の方法および基準 | <p>議論への参加姿勢や、課題の取り組み方について、3人の教員それぞれが1課題に対して5%分の評価を行う。</p> <p>各自が作成したプロダクトの内容について、分子的な観点から統合的にまとめられているかや、根拠に基づいているかに関し、3人の教員それぞれが1課題に対して10%分の評価を行う。</p> <p>発表について、主導的な立場からの内容であったかを観点に、1課題5%分の評価を行う。</p> |
|--------------|---|

| | |
|-------------|---|
| その他履修上の注意事項 | <p>2日間(授業計画1～4と5～8)の集中講義型で行い、評価する。</p> <p>まとめたプロダクトの内容に対し、討論を通してフィードバックを行う。</p> <p>この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。</p> |
|-------------|---|